

埼玉県環境白書の刊行にあたって



今、世界中で極端な気象現象が観測されています。日本では今年7月、西日本から東海地方を中心に記録的な大雨が降りましたが、近年、こうした豪雨や長雨による水害や土砂災害は毎年のように発生しています。一方、熊谷市で国内最高となる41.1度を記録したのをはじめ、各地で災害レベルの猛暑が続き、熱中症による搬送が相次ぎました。加えて極端な気象現象は農作物の生育も阻害し、私たちの生活に大きな影響を与えています。

また、魚介類がマイクロプラスチックを体内に取り込む事例が発生し海洋汚染が話題となっていますが、こうした環境問題の元をたどると全て私たち人間の行動に行き着きます。しかし、一部の企業や業界団体では人類が将来世代にわたり恵み豊かな生活を確保できるよう問題解決に向けた自主的な取組を始めており、環境への意識は向上しつつあります。持続可能な社会を実現していくため、私たち一人一人がより一層の危機感を持って、問題を主体的に捉え、環境に配慮して行動することが重要です。

本県では、平成29年3月に見直した「埼玉県環境基本計画」に基づき、環境負荷の少ない社会構築を進めています。世界的に見ても先進的な「目標設定型排出量取引制度」の導入によるCO₂排出量の削減をはじめ、再生可能エネルギーの利用拡大やエネルギーの地産地消に取り組んでいます。

また、生物多様性の保全対策は、自然環境分野にとどまらず、農林業、河川整備、都市地域の緑の創出においても、自然環境への配慮や生態系の再生・保全、そして、これらを維持していくための担い手の育成等を行っています。

さらに、埼玉県環境科学国際センターでは環境問題に適切に対応するための調査研究として、ラグビーワールドカップ2019™の会場である熊谷文化スポーツ公園におけるスーパーコンピュータを駆使した暑熱対策や、特定外来生物によるサクラの被害防止、化学物質の分析方法の開発及び国際標準化などに取り組んでいます。

この「埼玉県環境白書」は、本県の環境状況と、環境の保全や創造に関する施策の進捗状況を取りまとめたものです。この白書が、多くの県民の皆様の環境問題に対する理解を深めるとともに、環境の保全・創造活動に取り組まれる際の一助となれば幸いです。今後とも、皆様の御支援と御協力を心からお願い申し上げます。

平成30年12月

埼玉県知事 上田清司